

「第5次高齢者保健福祉計画・第4期介護保険事業計画」の現状と課題について

◎ 趣 旨

本市では、平成21年3月に策定した「第5次宇都宮市高齢者保健福祉計画・第4期宇都宮市介護保険事業計画（にっこり安心プラン）」（計画期間：平成21～23年度）に基づき、4つの基本目標を定め計画的に施策事業を推進しており、その取組状況を取りまとめたことから、現状と課題について協議するもの

◇ 基本目標1「健康ではつらつとした生活の実現」

高齢者がいつまでも、健やかではつらつとした生活を送ることができるよう、高齢者が主体的に健康づくりに取り組める場や機会、情報等を提供するとともに、健康を保持・増進する一次予防に重点を置いた対策を推進し、疾病の予防、早期発見・早期対応を図ります。

また、高齢者が、閉じこもりや寝たきりなどの要介護状態に移行しないよう、介護予防対策事業の充実を図ります。

1 主要事業の取組状況

(1) 健康づくりの推進

① 健康づくり実践活動の推進【成果指標対象事業】

健康づくり推進員の養成講座や全体研修会を通して、人材の確保や育成、地域における健康づくり推進組織の設立の支援に取り組み、目標に達している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
健康づくり推進員養成者数	目標値	930人	1,010人	1,090人
	実績	926人	1,014人	—
	達成率	99.6%	100.4%	—

② 健康教育の実施（生活習慣病予防）

生活習慣病予防のための健康教育に取り組み、概ね目標に達している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
延開催回数	目標値	810回	810回	810回
	実績	590回	745回	—
	達成率	72.8%	92.0%	—

(2) 疾病予防対策の推進

① 特定健康診査（健康診査）の実施

受診勧奨や周知・啓発を強化するとともに、受診しやすい体制整備に努めたが、「宇都宮市特定健康診査等実施計画」や国が掲げる受診率の目標に達していない。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
特定健康診査受診率	目標値	40.0%	50.0%	60.0%
	実績	22.8%	23.3%	—
	達成率	57.0%	46.6%	—

(3) 介護予防対策の充実

① 介護予防教室の開催【成果指標対象事業】

全小学校区での教室開催を目標に事業に取り組み、目標を上回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
開催回数	目標値	768回	792回	816回
	実績	737回	817回	—
	達成率	96.0%	103.2%	—

② 特定高齢者把握事業の実施

特定高齢者の決定方法の変更に伴い、平成22年度については目標を大きく上回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
特定高齢者数	目標値	4,600人	4,900人	5,100人
	実績	249人	23,743人	—
	達成率	5.4%	484.6%	—

* 平成22年8月6日付老発0806第1号により「特定高齢者」から「二次予防事業の対象者」に名称変更

③ げんき応援教室（総合型プログラム）の開催

特定高齢者の増加に対応するために、教室の開催回数を増やしたことから、目標を大きく上回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
開催回数	目標値	120回	130回	140回
	実績	144回	261回	—
	達成率	120.0%	200.8%	—

④ 訪問指導の実施（介護予防）

特定高齢者の増加に伴い、訪問看護師等による指導対象者数も増加していることから、目標を上回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
訪問件数	目標値	50人	55人	57人
	実績	32人	76人	—
	達成率	64.0%	138.2%	—

2 アンケート結果

● 介護・介助が必要になった主な原因 [高齢者調査]

介護・介助が必要になった主な原因は「高齢による衰弱」、「骨折・転倒」、「脳卒中（脳出血、脳梗塞等）」、現在治療中の病気は、「高血圧」が最も多くなっている。

● 地域包括支援センターの認知度 [高齢者調査, 若年者調査]

高齢者の6割、若年者の約4割が、地域包括支援センターについて「知っている」と回答している。

● 介護予防事業の認知度 [高齢者調査]

介護予防事業のうち、「げんき応援教室（通所型介護予防事業）」(23.8%)、「はつらつ教室(介護予防教室)」(28.0%)の認知度が低い。

3 課題の整理

(1) 健康づくりの推進

地域での健康づくりの核となる「健康づくり推進員」の養成・支援に取り組んでおり、引き続き、市民に身近な地域の仲間として、健康づくり推進員を活用した地域主体の健康づくりを進める必要がある。

- ・ 健康づくり推進員を活用した地域主体の健康づくりの推進
- ・ 幅広い年齢層に対する健康教育の充実

(2) 疾病予防対策の推進

- ・ メタボリックシンドローム予備群や該当者を減少させるなど生活習慣病の予防のため、特定健康診査に取り組んでいるものの目標を達成することができなかった。
- ・ アンケート調査の結果、介護・介助が必要になった原因や現在治療中の病気として、脳卒中や高血圧などの生活習慣病の占める割合が高くなっている。
- ・ このことから、高齢者をはじめとした市民が健康的な生活習慣を確立できるよう、健康に対する意識啓発を図る必要がある。

- ・ 特定健康診査の受診率向上に向けた健診体制の充実
- ・ 生活習慣病予防の理解促進に向けた周知・啓発の充実

(3) 介護予防対策の充実

高齢者が寝たきりなどの要介護状態にならないよう、介護予防事業に重点的に取り組み、各種事業への参加者は増加しているものの、アンケートの結果では、介護予防事業の認知度は低調となっていることから、介護予防の更なる理解促進に向けた取組が必要である。

- ・ 効果的な介護予防事業の推進
- ・ 介護予防の理解促進に向けた周知・啓発の充実

◇ 基本目標 2 「ゆたかで生きがいのある生活の実現」

高齢者が、年齢にとらわれず、心身の状況に応じながら生涯にわたり交流の場を広げ、学習・芸術・スポーツ活動など趣味の活動等を通して、ゆたかで生きがいのある生活が送れるよう支援します。

また、豊富な知識や経験を持った団塊世代をはじめとするシニア世代が、まちづくりや地域福祉の展開に一層活躍できるよう、シニア世代の生きがいづくりや社会参画を支援するとともに、活力ある地域社会を目指します。

1 主要事業の取組状況

(1) 生きがいづくりの充実

① 老人福祉センター事業の推進

市内5館の老人福祉センターを活用し、教養講座や健康づくり教室に取り組み、概ね目標に達している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
延利用者数	目標値	252,000人	257,000人	262,000人
	実績	250,178人	236,131人	—
	達成率	99.3%	91.9%	—

* 平成22年度実績については、東日本大震災の影響により減少

② 老人クラブ活動の育成・支援

地域を基盤とする高齢者の自主的な組織である老人クラブ活動の支援に取り組み、概ね目標に達している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
老人クラブ会員数	目標値	21,437人	22,509人	23,635人
	実績	20,462人	20,479人	—
	達成率	95.5%	91.0%	—

(2) 社会参画の促進

① 高齢者外出支援事業の推進【成果指標対象事業】

高齢者の外出を促進するため、バスが利用できる専用バスカードの購入助成に取り組み、目標を下回っているものの、利用者数は着実に増加している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
バス乗車券利用者数	目標値	18,200人	19,100人	20,000人
	実績	14,518人	15,119人	—
	達成率	79.8%	79.6%	—

② みやシニア活動センター事業の推進【成果指標対象事業】

みやシニア活動センターにおいて「シニア講演会」などの各種事業に取り組み、目標を上回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
延利用者数	目標値	900人	1,440人	2,000人
	実績	915人	1,790人	—
	達成率	101.7%	124.3%	—

2 アンケート結果

● 高齢者の趣味や生きがい [高齢者調査]

一般高齢者の約8割は「趣味」・「生きがい」があると回答しているものの、認定者の約半数は「ない」と回答している。

● 現在、生きがいを感じる事 [高齢者調査]

現在、生きがいを感じる事については、一般高齢者、認定者ともに「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」との回答が多くなっている。次いで、一般高齢者では、「家族との団らん」(64.5%)、「友人や知人との交流」(61.3%)、認定者では「おいしい物を食べる事」(51.6%)、「家族との団らん」(51.2%)との回答が多くなっている。

● 今後の生きがい [高齢者調査]

今後の生きがいについては、「旅行に行くこと」、「友人や知人との交流」、「家族との団らん」との回答が多く、「老人クラブの活動」や「自治会活動」、「地域の児童等に関わる活動」との回答は少なくなっている。

3 課題の整理

(1) 生きがいづくりの充実

- ・ 身近な地域で気軽に参加できる活動の場や参加機会の充実を図っており、アンケート調査においても、一般高齢者の約8割は「趣味」・「生きがい」があると回答している。
- ・ 一方、認定者の約半数が趣味や生きがいはないと回答していることから、高齢者一人ひとりが、心身の状況に応じながら、生涯にわたり生きがいをもった明るい生活を送ることができるよう、高齢者の生きがいづくりの充実を図る必要がある。

・ 高齢者の状況に応じた生きがいづくり

(2) 社会参画の促進

- ・ 団塊世代をはじめとしたシニア世代の生きがいづくりや社会参画を支援するために、「みやシニア活動センター」を設置し、各種講座の開催や相談事業に取り組み、目標数を上回る市民の利用があった。

- ・ アンケート調査の結果、高齢者の今後の生きがいとして、「老人クラブの活動」や「自治会活動」，「地域の児童等に関わる活動」といった地域活動やボランティア活動との回答が少なくなっていることから、高齢者が有する豊かな知識や経験をまちづくりや地域福祉に活かせる環境を整備する必要がある。

- ・ **地域社会を支える新たな担い手である「団塊の世代」等に対する支援の充実**
- ・ **関係機関・団体等と連携・協力した社会活動への参加促進**

◇ 基本目標3「安心して自立した生活の実現」

高齢者がより安心して自立した生活を送れるよう、社会全体で支えることがますます重要となっていることから、介護保険のサービスをはじめ、福祉サービスの充実を図るとともに、市民、地域、企業、行政がそれぞれの責任と役割を担い、協働して高齢者を支えていく体制を整備し、高齢者が住みなれた地域で安心して自立した生活の実現を目指します。

1 主要事業の取組状況

(1) 介護保険事業の充実

① 介護保険サービスの提供

介護サービスの利用率は、概ね計画どおり目標に達している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
要介護認定者の 介護サービスの利用率 【成果指標対象事業】	目標値	74.5%	76.2%	78.0%
	実績	77.8%	78.1%	—
	達成率	104.4%	102.5%	—

- ・ 居宅サービスは、概ね計画どおり目標を達成している。
- ・ 地域密着型サービスは、グループホームを除き目標を下回っている。
- ・ 施設サービスは、概ね計画的に整備されている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
訪問介護 (ホームヘルプサービス)	目標値	438,173回	455,524回	466,243回
	実績	296,709回	309,362回	—
	達成率	67.7%	67.9%	—
通所介護 (デイサービス)	目標値	346,647回	365,215回	383,014回
	実績	381,768回	406,363回	—
	達成率	110.1%	111.3%	—
短期入所生活介護 (ショートステイ)	目標値	79,613日	84,178日	88,425日
	実績	102,599日	104,293日	—
	達成率	128.9%	123.9%	—
小規模多機能型居宅介護	目標値	1,932人	3,060人	4,188人
	実績	1,120人	1,387人	—
	達成率	58.0%	45.3%	—

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	目標値	3,096人	3,504人	3,504人
	実績	3,032人	3,109人	—
	達成率	97.9%	88.7%	—
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	目標値	14,556人	15,600人	16,992人
	実績	14,561人	14,458人	—
	達成率	103.0%	99.8%	—

② 訪問介護員養成研修事業の推進

利用者の視点に立った介護サービスの提供を行えるよう、訪問介護員養成研修事業に取り組み、目標に達している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
訪問介護員養成研修 受講者数	目標値	40人	40人	40人
	実績	40人	37人	—
	達成率	100.0%	92.5%	—

(2) サービスの質の向上

① ケアマネジャー・介護サービス事業者に対する研修会等の開催

介護サービス提供の要となるケアマネジャー等の資質と専門性の向上を図るため、各種研修事業に取り組んでいる。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
居宅介護支援専門員研修会 開催回数・受講者数の推移	開催回数	5回	4回	—
	受講者数	274名	481名	—

(3) 福祉サービスの充実

① 生きがい対応型デイサービス事業の実施

閉じこもりがちな高齢者を対象に、専用施設等において趣味の活動等のサービスの提供に取り組んだものの、目標を下回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
延利用回数	目標値	27,900回	28,740回	29,600回
	実績	26,821回	25,466回	—
	達成率	96.1%	88.6%	—

② 緊急通報システム事業の実施

急病などの緊急時にひとり暮らし高齢者等の安全を確保するための事業に取り組み、目標を上回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
緊急通報システムの 延利用台数	目標値	841台	883台	927台
	実績	929台	1,022台	—
	達成率	110.5%	115.7%	—

③ はり・きゅう・マッサージ施術料助成事業の実施

保険適用外のはり・きゅう・マッサージ施術を受ける際の料金の一部助成に取り組み、概ね目標に達している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
助成交付者数	目標値	6,826人	7,030人	7,240人
	実績	7,579人	6,385人	—
	達成率	111.0%	90.8%	—

④ ケアハウスの整備

高齢者が家庭環境や、身体的理由等により在宅での生活が困難になった場合においても安心して生活することができるようケアハウスの整備に取り組み、目標に達している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
ケアハウスベッド数	目標値	440床	440床	540床
	実績	390床	440床	—
	達成率	88.6%	100.0%	—

(4) 地域保健・福祉体制の充実

① ひとり暮らし高齢者等安心ネットワークシステムの推進

ひとり暮らし高齢者や障がい者などを見守るための体制づくりに取り組み、実績は増加しているものの、目標を下回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
見守り活動会議を開催 した単位自治会の割合	目標値	72.7%	85.3%	100.0%
	実績	56.1%	60.6%	—
	達成率	77.2%	71.0%	—

(5) 認知症高齢者対策の推進

① 認知症高齢者対策の推進

国の「認知症サポーター100万人キャラバン事業」の一環として、認知症サポーター養成講座に取り組み、概ね目標に達している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
認知症サポーター数 【成果指標対象事業】	目標値	6,000人	10,000人	15,000人
	実績	4,962人	9,458人	—
	達成率	82.7%	94.6%	—

(6) 高齢者の権利擁護の充実

① 成年後見制度の周知・理解促進

判断能力が十分でない認知症高齢者等を保護・支援するため、成年後見制度など高齢者の権利を擁護する制度について周知・啓発に取り組み、相談件数は増加したものの、目標を下回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
相談件数	目標値	55件	75件	100件
	実績	21件	29件	—
	達成率	36.4%	30.2%	—

2 アンケート結果

● ケアプランの満足度 [介護保険利用者実態調査]

ケアプランに対する満足度は、87.8%が満足と答えている。

● 介護保険制度の認知度 [高齢者調査, 若年者調査]

- ・ 介護保険制度の認知度について、高齢者・若年者ともに「ある程度知っている」との回答が多くなっている。
- ・ 一方、「あまり知らない」、「ほとんど知らない」との回答が約半数近くある。

● 介護予防事業や福祉サービスの認知度 [高齢者調査]

市が実施する介護予防事業や福祉サービスの認知度については全体的に低くなっている。

● 今後、高齢者施策を進めるうえで重点を置くべきこと [若年者調査]

若年者を対象に調査した結果、重点を置くべきことについては、「認知症の人やその家族を支援するサービスの充実」、「介護人材の確保のための介護従事者への処遇改善」、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設サービスの充実」の順となっている。

● **高齢者の主な相談相手** [高齢者調査]

何かあった際の相談相手については、「配偶者（夫・妻）」、「息子」、「娘」の順となっている。また、「医師・歯科医師・看護師」との回答の割合に比べ、「地域包括支援センター」や「ケアマネジャー」、「民生委員」といった回答の割合が低くなっている。

● **地域包括支援センターの認知度** [高齢者調査, 若年者調査]

高齢者の6割, 若年者の約4割が, 地域包括支援センターについて「知っている」と回答している。

3 課題の整理

(1) 介護保険事業の充実

- ・ 介護保険事業の円滑な実施に向け, ケアマネジメントの適正化など各種事業に取り組み, アンケート結果においても, ケアプランの満足度は約9割となっていることから, 今後とも, より一層, 適正な介護サービスの確保に努める必要がある。
- ・ 高齢者本人や家族などに対し, 介護保険の手引きによる説明や広報紙・ホームページなどを活用しながら, 適切なサービス利用に関する周知に努めたが, アンケート調査の結果, 介護保険制度の認知度は約半数となっていることから, 更に介護保険料など介護保険制度についての理解を促進する必要がある。

- ・ **高齢者の多様なニーズに応じた地域包括ケアの推進**
- ・ **介護保険制度の理解促進に向けた周知・啓発の充実**

(2) サービスの質の向上

アンケートの結果では, 「介護人材の確保のための介護従事者への処遇改善」について重点を置くべきとの回答が多くなっていることから, より質の高いサービスの提供に必要な介護人材の確保や, 介護従事者の専門的能力を高めることができる研修の場の提供など介護人材の育成支援に努める必要がある。

- ・ **質の高い介護人材の安定的な確保のための取組**
- ・ **県や関係機関と連携した介護人材の育成支援**

(3) 福祉サービスの充実

高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して自立した生活を送れるよう, 在宅福祉サービスや施設福祉サービスの充実に取り組んでいるが, アンケート結果では, 在宅福祉サービスの認知度・利用希望が低くなっていることから, さらに周知・啓発に努めるほか, 高齢者のニーズに応じた福祉サービスについて検討が必要である。

- ・ **福祉サービスの認知度向上に向けた周知・啓発の充実**
- ・ **高齢者のニーズに応じた福祉サービスの検討**

(4) 地域保健・福祉体制の充実

ひとり暮らし高齢者等安心ネットワークシステムの構築など、地域社会全体で高齢者を支える体制づくりを進めており、引き続き、高齢者が安心して暮らせるよう、地域を支えるボランティアの養成・活動に対する支援や、関係機関・団体等と緊密に連携した地域づくりを進める必要がある。

- ・ 地域を支えるボランティアの養成・活動に対する支援の充実
- ・ 自治会をはじめとする関係機関・団体等と連携した地域づくりの推進

(5) 認知症高齢者対策の推進

- ・ 今後、高齢者施策を進めるうえで重点を置くべきこととして、「認知症の人やその家族を支援するサービスの充実」が求められていることから、引き続き、認知症に関する正しい知識の普及やケア体制の充実など、認知症の本人や家族が暮らしやすい地域づくりを推進する必要がある。

- ・ 認知症に対する正しい知識の普及や理解の促進
- ・ 医療・介護・福祉が連携したケア体制の充実

(6) 高齢者の権利擁護の充実

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、成年後見制度の周知や虐待防止に向けた取組を進めており、引き続き、地域包括支援センターを中心に、民生委員・児童委員等との連携を図りながら、高齢者の権利を擁護するための取組を推進する必要がある。

- ・ 成年後見制度、日常生活自立支援事業の理解促進に向けた周知・啓発の充実
- ・ 虐待の防止・早期発見に向けた取組の推進

◇ 基本目標 4 「快適で安全安心な生活の実現」

高齢者が、住み慣れた地域社会で自立し、安心して日常生活や社会生活を送れるよう、「こころ」と「生活環境」のバリアフリーの推進を図るとともに、居住環境の整備を図り、高齢者の快適で安全安心な生活の実現を目指します。

1 主要事業の取組状況

(1) ユニバーサルデザインの推進

① 公園のバリアフリーの推進

高齢者をはじめとするすべての市民が安心して親しめる公園となるよう、バリアフリーを計画的に進めており、概ね目標に達している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
バリアフリーを図った公園数	目標値	103公園	108公園	113公園
	実績	102公園	105公園	—
	達成率	99.0%	97.2%	—

② 道路のバリアフリーの推進

高齢者をはじめとしたすべての市民の移動の円滑化を図るため、交差点のバリアフリーを計画的に進めており、目標に達している。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
交差点段差解消箇所数 【成果指標対象事業】	目標値	2,549箇所	2,714箇所	2,885箇所
	実績	2,540箇所	2,739箇所	—
	達成率	99.6%	100.9%	—

(2) 安全で安心な暮らしの確保

① 高齢者に対する交通安全教育の実施

老人会等の集会など、高齢者が参加しやすい場所での交通安全教室開催に取り組んでいるものの、目標を下回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
交通安全教育開催の老人クラブ数	目標値	260団体	300団体	320団体
	実績	164団体	124団体	—
	達成率	63.1%	41.3%	—

② 災害時要援護者支援事業の実施【成果指標対象事業】

地震や風水害等の自然災害が発生した場合に、ひとり暮らし高齢者など「災害時要援護者」に対する支援体制の整備に取り組み、登録者数実績は増加したものの、目標を下回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
登録者数	目標値	9,675人	10,950人	12,225人
	実績	8,056人	8,138人	—
	達成率	83.3%	74.3%	—

(3) 高齢者にやさしい居住環境の整備

① 高齢者にやさしい住環境整備補助事業の充実

要介護認定高齢者を対象に継続して在宅での日常生活を送れるよう、居室、浴室及び便所等の改修工事に要する経費の一部を助成しているが、補助件数は目標を下回っている。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
高齢者にやさしい住環境整備補助件数	目標値	43件	47件	52件
	実績	32件	26件	—
	達成率	74.4%	55.3%	—

2 アンケート結果

● 高齢者が外出する際の移動手段【高齢者調査】

高齢者が外出する際の移動手段について、一般高齢者は「自動車(自分で運転)」、「徒歩」、「自転車」の順、認定者は「自動車(人に乗せてもらう)」が最も多くなっている。

● 高齢者の住まいについて【高齢者調査】

高齢者の住まいについて、「持家」との回答が最も多く、主に生活する居室は1階が60%を超える結果となっている。

3 課題の整理

(1) ユニバーサルデザインの推進

広報紙による周知・啓発や「宇都宮市民福祉の祭典」など各種事業を通じ、「こころ」と「生活環境」のバリアフリーに対する理解を深めており、引き続き、身近な交流活動を通じた福祉のこころをはぐくむ取組を進める必要がある。

- ・ イベントや身近な交流活動を通じた福祉のこころをはぐくむ人づくりの充実

(2) 安全で安心な暮らしの確保

交通安全教室や災害時要援護者登録制度など各種事業に取り組んでおり、引き続き、高齢者が住み慣れた地域において安全で安心な暮らしを確保できるよう支援体制の充実を図る必要がある。

- ・ 高齢者の身近な場所での啓発・教育活動の充実
- ・ 災害時に迅速・的確な対応ができる支援体制の充実

(3) 高齢者にやさしい居住環境の整備

アンケート調査の結果、高齢者の住まいについては「持ち家」、 「民間賃貸住宅」の順となっており、これらの住まいに高齢者が安心して住み続けることができるよう、居住環境の整備に対する支援が必要である。

- ・ 安心して住み続けることのできる高齢者の居住環境の整備